内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2004年11月）

◎内海事務総局長から

中東のアラビア湾に浮かぶバーレーン王国は、人口70万人、奄美大島と同程度の広さの国です。バーレーンは、中東地域のなかでは早くから石油を生産して、中東地域の発展を引っ張ってきた国です。裕福な国とのイメージがあり、そのつもりで訪問しました。

まさに、国じゅう（といっても小さい都市にすぎないですが）、新しいビルと道路の近代的な風景でした。国民の生活レベルも、一見、日本人よりはよほど金持ち風に見えました。ところが、サウジやクウェートからのみならず、日本からも援助を受けている国だと聞いて、いったいどうなっているのだろうと思いました。

バーレーンは回教国ですが、酒を飲むことも自由で、近隣の回教国から多数の回教徒が自由を求めて観光に来ます。イラクを攻める米軍基地もあります。また、多くのサウジ在住の外国人が、毎日、子弟をバーレーンの学校へ通わせるために、長い国境の橋を渡るため、大変な交通渋滞です。その橋の真ん中にある国境の税関を通過するのに、高額の料金を払えば、優先取扱いをするゲートもあります。

皆、それぞれ知恵を絞り生きているのだと実感しました。

◎11月の事務総局長の主な動向

11月17日　EU加盟国代表部大使会合（ジュネーブ）

EU（欧州連合）の現在の議長国であるオランダが、WSISチュニジアフェーズへの準備状況と期待される成果などについて、EU加盟国で共通の認識を持つために、EU加盟国代表部大使による会議を開催しました。その冒頭に私が招待され、WSISチュニジアフェーズでは、2003年のWSISで採択された基本宣言と行動計画を確実に実施するためのメカニズムを策定することが重要であることを説明しました。

欧州各国は、WSISを開催するチュニジアが、民間や市民団体などの十分な参加を確保するのか、その公開性について懸念しているようです。しかし、チュニジア政府は、このような西欧諸国の懸念を十分に承知しているので、万全な準備が行われると考えています。

11月15～16日　WSIS準備会合議長フレンズグループ（GFC）（ジュネーブ）

2005年のWSISチュニジアフェーズでは、2004年にジュネーブで採択された宣言及び計画の再確認、継続検討となっているICT開発のための財政メカニズム、インターネットガバナンスなどの新たな政治的合意、WSIS行動計画の具体的な実施メカニズムがまとめられると想定しています。これらの成果に向けてWSIS準備会合の議論のベースとなる文書を、政府、民間、NGOなどからの入力文書を基本にしつつ、GFCが策定することとなっています。

現在のところ、文書案の政治的なメッセージをどうするか、構成をどうするかなどの全体的な議論をしていますが、今後、国連事務総長のタスクフォースで検討が進められている財政メカニズムのレポートが入力されてくると議論も本格化していくと考えています。2005年1月に、再度GFCを開催して、2月のWSIS準備会合での議論のベースとなる文書を確定する予定です。

11月23～25日　WSISインターネットガバナンスWG（国連、ジュネーブ）

2004年のWSISでは、特にトップドメインの管理方法について議論が集中して、結果としてインターネットガバナンスに関して国連事務総長のもとに作業班をつくって継続検討することとなりました。国連事務総長から任命されたメンバーによる同作業班会合が、ジュネーブで開催されました。

メンバーの中には、2004年のWSISの背景をよく理解しているメンバーもいれば、全くWSISのことを知らないメンバーなど様々です。学識経験者、政策担当者、民間、外交官など職種も様々です。そのため、議論の範囲が大きくなりがちですが、各種サミットの経験豊富な議長のデサイ氏（前国連事務次長）の采配に期待しています。2005年のWSISでの主要な成果となりますから、多くの関係者、メディアが注目しているところです。

11月24～26日　アゼルバイジャン公式訪問

カスピ海の西南岸に位置し、バクー油田などの豊富な天然資源で経済の安定化を目指すアゼルバイジャンを公式訪問しました。WSISの関連会議がありました。

アリエフ大統領は、石油産業以外の発展のためにも、ICT産業による経済発展に力を注いでいて、2004年のWSISにも出席されましたが、アゼルバイジャンが、情報立国になるよう決意を表明すると同時に、2005年のWSISへの出席も表明されました。

11月26～28日　バーレーン公式訪問

サルマン皇太子、カリーファ首相らと面会しICT事情などについて意見交換を行い、バーレーンのITUセクターメンバー企業代表らとも交流してきました。

遺跡の上に立つアゼルバイジャン首都バクーの旧市街　撮影：内海善雄